

中村俊定文庫
文庫 18
310



寬延三庚午秋

季回山浦

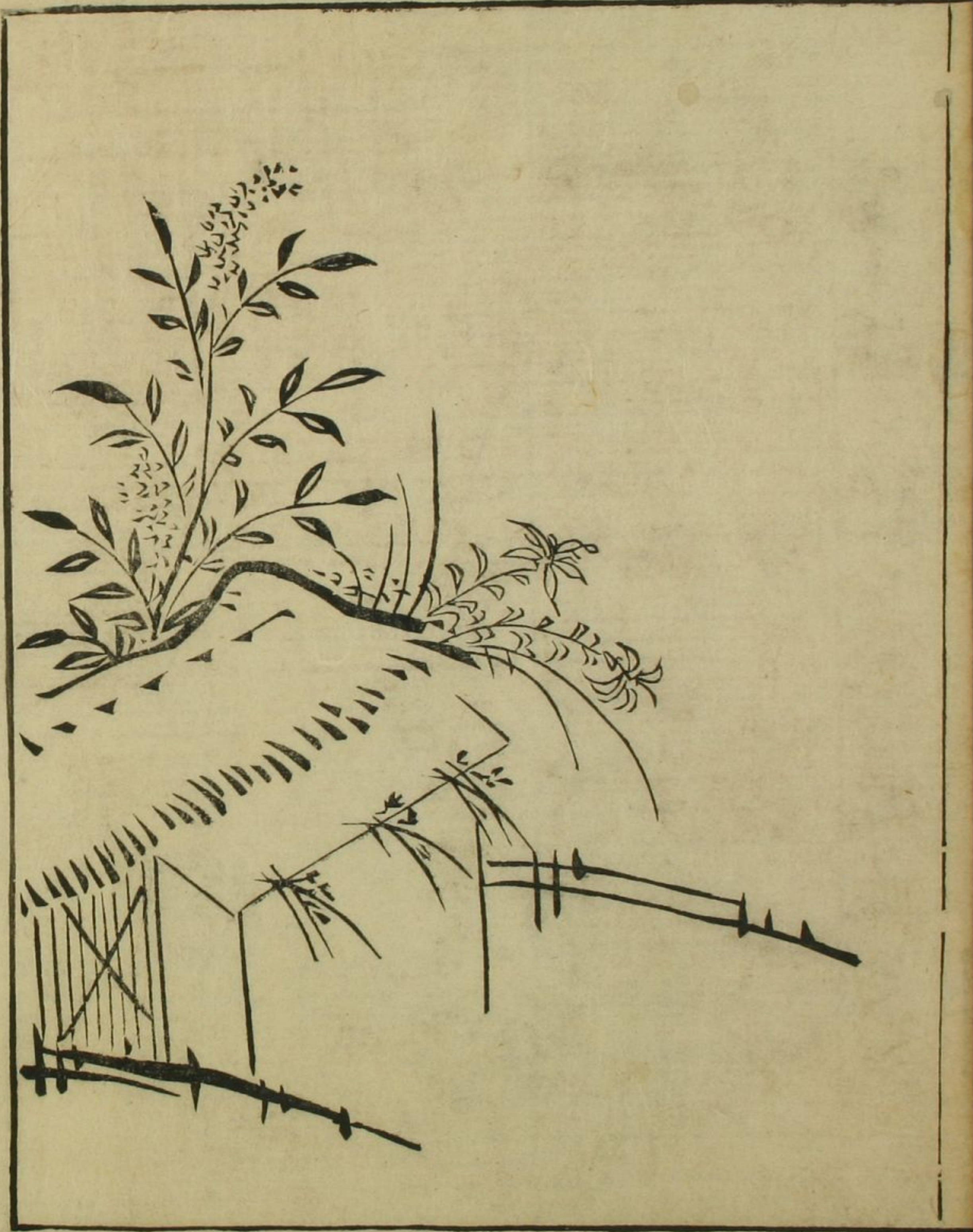
濃北方東隱撰



熊石



左流頭にありて一善光寺僧と
 おもひきりてふ事いふに國に科の
 里に田文の風土ありてなるより
 舟のつらき程にまなとをよ
 美子枝の像ありては熊石酒蔵の



おししはるの命しをわあはる
雪れ本骨路もあふれ秋よ子
目とあもしし免痛免の里れ
勢よ子身を流しくをあ志
風流をく流情をししはる
似ししめししあよあ人
黄鸝つよ毎二れ親友し
れこの純癖もあよあし

巧もるしし探集の目録よ
その中なるあもあし陽庵志
朝よあし錢の一章よあし
あしあしあしあし

乙并切

卯れ志の

あしあしあし



あしあし

さうさ六日新し祝山下北
あふしとをうらむのつら
軒をあや免子暮久座子
あふしのつらとあふしハ

東隱

風は上り朝は霞をふあや免
笠休乞ひ月 而此 暗 富苗
取あぬ池乞ひ定と酒くこて 以桂
坂と三里くをい市町 文曉

深おま便河へ心皇の月 八葉
ゆーい中必 登真へ美理 仙毫
そらうら凡さうな所く 萩原 定外
化すうさ名のをうら 狐塚 里由
兵法とありのぬ神うささ於うら 兼童
孝りうさうらうら 鈴越 仙二
第月もあふしとあふしとあふしと 苗
泣より喉子泣く 沮繁海 隠

おひーく心代の言なきれ

二

葛町節の向ふ暖茶

桂

牛乳背子うひひ五郎の隠し掛

亀

向く控ぬ氣の母うさぎ

菜

さー引さへ向う寝静のじ加減

由

追ふくやけとと年子姑の故

外

月影子枝もたうさ治相三川

曉

糸とく海沢山の七郷

童

ユウ

箱王も志きの多い石審紙

匠

あふり子子朝日よきう白変

苗

咲花子目白駒多る尾長ゆて

桂

笑ひを泣き原を御代の基

曉

東徳子子後続をうらむ

看れ机山下子校と休ぬ日

美竹や家も千早に旅ちく

以桂

虚白身々々

東隱

昔侍心嘗と山にに〜あとも

風の薫りをせめく養徳 丈曉

ふさふさ〜ぬ不帯とおなまて 八茅

糠倉の海も馬の叱ら続 枕仙

月新七晴く十二夜十之板 富苗

高も〜くと萩の下に 表る

世代も古まの思とま〜ま〜 噴枝

袖飛り足も〜けり換ふ 百之

面れりをめ〜も〜〜起降子え 兼平

右一頰下效之

流水園々々

東隱

夕影や二口の月を灯〜ゆへ

翠の簾〜おふらぬ〜な時を火 八菊

和音よそつりよの芳名利をわて 定外
 伊の志ぬ蘇のねしよのゆゆ 里由
 病うらゝるおのこもあゝぬと 百之
 除けぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 富苗
 何とぞゝゝの柳のおきむゝゝ 仙二
 神のおあゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 菊亭
 仲人の橋とあちゝゝゝゝゝゝ 文暎

市隠合れく

東隠

子さりやこれ水宮も娘 松屋の夢
 伊の志ぬゝゝゝ 月 の屋 菊亭
 畑中子後りなと蘇妓のたきあけ 富苗
 抱ききゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 文暎
 三産訓も取訊ゝゝゝゝゝゝゝゝ 表而
 りゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 柳岐

庚申子わけふさぎぬ佳へ半 八首
酒まへ看先しちちく多し好 仙翁
高のりわけふさぎぬ竹書ふら 定外

新田

己泉亭うきく

東隠

あらしくあらしく山を移りて雲の顔

暑さ吹ちぬ風のも 桐 五泉

碎さるるか多し碎さるるの顔なりと 菊亭
ささるる竹ふは眠る鹿人 定外
新入の埃りさしと月のみ眉 三梁
思ひつけぬ顔は初ゆ 百々
顔はさるる顔はさるる晴晴と 烏考
ささるるささるるささるる仙二
之味深きさるるささるる奥に後 文曉
夏へもちりぬ向ひ 石 樹 富苗

同所

三深亭に

東隱

瓜の糸や姦き風の若徒使

暑さよりしん宵の刃の緒

栄耀も飽くか城の里下りて

今子あゝぬ他父の如き

河破ととくをんを心春月夜

氷の引去るはふ 居能

并

廿

甘口の新酒を下戸も朧とも

持高よりすね 善信目論

迂叟居よ

東隱

蕎麦の香子やもぬりし 麦大根

まじく麻子もく 抄少蝶

飯御新の都の伺すたきこ

越后もよみんか 時あのをり続

ハ兼

表面

定介

文暁

里由

初よりまよひてゆく月の手
 露の露の露の露の露の
 葉の葉の葉の葉の葉の
 花の花の花の花の花の
 退居もたふくまひに事
 星の星の星の星の星の
 子いのもよみて山を向く
 心きのなほひの田歩細く
 仙二

文通

此方よりあなをよむ
 仁科よむの原をよむ
 心よむの心よむ
 心よむの心よむ
 心よむの心よむ
 心よむの心よむ

又とほほのたふらん
こころのこころ

いんじん〜〜〜
たあ〜

あき月

何世店
也

東隠山坊
書後

糸魚川

此知の人〜〜〜
城へまはらぬの学情とては

東隠

いんじん〜〜〜
糸魚川

眠新柳よま〜〜
口物よあ子の機嫌とるる事
こころすぬ者〜懐の菓子
佐藍
富苗
左
菊

増し 明りけり 秋月のよきるし 葩文

節 佐の君よ 名ぬ 深との 希酉

心代も 御訓の心は 推し 孤舟

下 結て ありく ところい 砂道 佳三

花帳の 利生も 元と 晴く 兔川

芝居の ちを 報り 多き 蒲照

花娘の 存も ちり 住を 結ふ 定介

左 屋敷 町を のちく 住さ 三梁

枝村へ 結岸と けく ち加 鶴 治守

り 心り ちを 年く 竹 以

馬 医者 の 用は ちり けく 羽 紅

こ けり ちを ちり 住を 結ふ 鯉 尹

海 簾の 新地も 目え ち 杜 荏

清く 日和 ち月 ち ち 一 几

類別

尾張國のあぢし此の縁縁と二之奴
をく縁縁たるは名とめくもあぢ
河内中う縁縁たるは名とめくもあぢ
くへ縁縁たるは名とめくもあぢ
すく縁縁たるは名とめくもあぢ
たへ縁縁たるは名とめくもあぢ
小見とあぢたるは名とめくもあぢ
といぢりー縁縁たるは名とめくもあぢ

石子貝子被を縁——縁をくく

佐藍

仁科

縁子

鼻月くく縁縁たるは名とめくもあぢ
東徳師と名柳山下とくく縁縁たるは名とめくもあぢ
東七等閑たるは名とめくもあぢ
東ひとくく縁縁たるは名とめくもあぢ
なれー縁縁たるは名とめくもあぢ

夕影やん縁縁たるは名とめくもあぢ

縁縁たるは名とめくもあぢ

富苗

此ほとた流涙のあけし末隠ゆ
 北越魚江の松屋しる君之直江の
 昔後子十のあゆまのそよとあけし連
 松の下よりあゆまのそよとあけし連
 水也月とすよとあけしあけの思ひ
 志すあけしは後子のあけしあけ
 後子のあけしきしあけのあけしあけ
 後子のあけしあけしあけしあけし
 後子のあけしあけしあけしあけし

後子のあけしあけしあけしあけし 文晴

後子のあけしあけしあけしあけし 定外
 後子のあけしあけしあけしあけし 五泉
 後子のあけしあけしあけしあけし 鳥彦
 後子のあけしあけしあけしあけし 三梁
 後子のあけしあけしあけしあけし 仙二
 後子のあけしあけしあけしあけし 里曉
 後子のあけしあけしあけしあけし 百之
 後子のあけしあけしあけしあけし 百之
 後子のあけしあけしあけしあけし 百之

見送りや猿子すうりく時狂子 仙童
 清きらぬるまきものも 榎麻 柳波
 虎の尾の千里とむのそ途うね 菊童
 歌く作あまうきまや音のむ 八菊

笛別

柵と奄のほろれ、黄鸝の門能
 なほふるも旧交のちきまもほくほ
 擧月七初ちむ能宗まう
 笠と脱てあゆ依徒平流の
 本松子うりりきあるい五條は
 式はうま文、虎の竹嶽ははら

阮子卷七あゆみ細ひく走陸と
とくも海を飛なりぬらむ月七
未ちりきやう子燕のこきひんじ
すへしうもいし連綿まの月と
とくも細ひらり

秋らう——家々燕の

東隱

先り心

松竹

まよひの影と見送るはまの 双李
とくも海を飛なりぬらむ月七 新舒

先のこ——此らうまの次もあつた
お那一年の菊月な海冥とる一甲をこれ
るまよひをなしていまだたわらむと
とくも海を飛なりぬらむ月七
智くまをなしていまだたわらむと
甲のこ——

たもこれ校よなりや 蔓花白子 山志

中津川

鳥居子仁神のゆきと
若河親子とくわく

喜まつき河の道とて中津川 芦田

左邊宮のありし本宮路のゆきと
又邊のゆきと各所もゆきと
おつと波底子ゆきと

新橋七光の部 一 店の垣 里由

仁神

侍信

左邊宮のありし本宮路のゆきと
又邊のゆきと各所もゆきと
おつと波底子ゆきと

ゆきく日のち差しとよぬ扇か	鷹仙
業は真子ゆき脱習の語話衣	此周
光と乙女も咲けど栞枝系	字紅
花七宵の延びとて深く語む人	芦江

卯のふしの垣深く待 栞枝り非

李 彌

松虫や之のそとくもどとさやい 帰

栞 先

ゆり踏のききもとやせうし 新海棠

里 中

釣くかの鹿もつくや 藤とまを

紀 外

まよの粘子こらう 向りも木 槿

一 拳

か巫しや星のぬちも多 栞の上

逸 可

侍法やあめぬきも有 吟かきし

左 右 周

柳さその葉と掃く 海とまを

改田 仙 丈

か巫しや巫くくの木 槿まを

西 郷 馬 北

釣形や口思も去る ぬ 藤とまを

瓢 五

侍法やあめぬく 扇い海と 栞まを

左 二 狂

左邊の言録竹のまじりごと
邦の所り柳のゆるり

葵明

春の秋の一日かきや 柳の

月七細目子笑ふ 縁波 東隠

何れもく店の春の鴨啼て 五竹坊

あの子のまはなまふむしと 里中

凡山のお入も柳か生へまきり 鷹仙

猿くいあまぬ 糸相造 此周

諸因輯韻

夏もりふ庭よまきやすし 百合 尾十ヤ 第溪

野子柳の馬の尻子あふ 花イ

さししころ柳の古しや 都西

卯のふ子夕日のぬや 河鳥

暖はくを柳や 雨舟

三ヶ月子眉よりさうさ 里昔

掃庭よ本候ま 昌阿坊

とらぬや秋の穂先の蔭より 左所中下 馬六

枕をり、抱りきく月巴う那 玉甫

是らも之へるるれ曇り那 字ト

花も雪の名はひく清く近極 呂朝

松月の翠の音より一十之歌 アツタ 阿當

稲妻や波の急の先もしを 一宮 栄子

漸くまや潮之く鐘の音 東菊

お碧の歌よありり一ほの月 孫志

月よあうぬ風やいくと 花の系 春和

ハ朝や稲のとも見も里の情 素飲

蘇もも花の庭や 伊勢からナ 表士

おまを秋と隣りの庭う那 芦洲

稲妻や月のおほねおほのるま 左矢田 帆十

風よま川秋とや萩の子合息 土佐より知 枝山

移せいの花さう海り 越前フクイ 鏡岩 竹忍

いそしは柳とありま さえ坊 春の雪

卯のふや結の綿は地子さく 柳音

月おと川あふも娘りし為りし 越新沼 江西坊

菽入の伊達や結花よりけし 左カヤハ 文先

管のあし子解しや 露 左カヤハ 露叟

紙衣ぬく人と侍とや 暁極 左シハタ 悠虎

向く結を子の日北松の文 信州ヒラヤ 許虹

まゆ梅や口けの位とくし 孤嶺 三呂

夏瘦もきぬ息なりとも 如くへ 名石

踏とる所裾やや 雪のふら葉摘 東武 年路

解く結花や 花うらうらふ葉摘 風話

日東のともく 向くとも 暑く 那 文東

梅、秀や 竹言の定のそり 亭 翠吹

渚きあき 舟のそり 秋きうや 板大根 長渡山野 六芝

お空の伊達も 美まともや 百目紅 赤羽

梅、真を 浮世の奥や 涅槃像 セキ 知玄

瘦くとも 起ころどし 冬に秋 キフ 柿方

一刻の價をいふ夕まきみ 芳麻
綿毛の雛もとりや田嶋和 カサニツ 楚流
初午やふいふとく世の福 竹ヶ鼻 達史
秋を内くち風も撫原奈良国 大カキ 才意
よき業よとゆれし並に初保 隆五
庚りもくさき世おありあむ イロ 乙春
松根の葉はくさくさく 北方 可作
よみ行や風もくさく 知恵 まさ 葵明

冥ちも勝やあし くさく 此 園
塵埃や何さく くさく 虫の声 宇 紅
一好 くさく 田植奇 夜 紅

追加

左流主人家仁科へ山柳のう
神都 くさく 千尾席子
と くさく と くさく と くさく と くさく

船中より見たるやうの山は
——

架るの目も白くや雲の額

僧

江中

花 雉

持 治 板



